

心理統計法特論 I

選択 2単位

飯島 雄大

1. 授業の概要(ねらい)

心理学の量的研究では、心理現象を検証するために統計解析を用いることが必須である。そのため、量的研究を行うときには、データを適切に収集し、解析し、その結果を解釈し報告することが必要になる。この授業では、心理学研究におけるデータの位置づけや役割を理解し、また、収集したデータを分析、解釈、報告するといった基礎的なデータ処理の方法を学ぶ。前期の心理統計法特論Iでは、主に実験的手法で得られたデータの分析方法を扱う。これらを実行する際には、統計ソフトウェア(SPSSを予定)を用いる。

2. 授業の到達目標

- ・データを適切に収集し分析することができる
- ・分析した結果を適切に解釈し、報告することができる

3. 成績評価の方法および基準

平常点(40%)、プログラムやレポートなどの課題(60%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

対馬栄輝 SPSSで学ぶ医療系データ解析 第2版 東京図書
橋本 貴充・荘島 宏二郎 実験心理学のための統計学 誠信書房

5. 準備学修の内容

- ・心理統計の基礎知識を復習すること
- ・統計ソフトウェアを用いてのプログラミングの復習をする こと

6. その他履修上の注意事項

受講生の理解度や進捗によって、以下の授業内容や順番を変更することがある。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 SPSSの使い方
- 【第3回】 データの取り扱い
- 【第4回】 記述統計を求める
- 【第5回】 度数の偏りを調べる
- 【第6回】 2つの平均値を比べる:対応のあるt検定
- 【第7回】 2つの平均値を比べる:対応のないt検定
- 【第8回】 3つ以上の平均値を比べる①:参加者間1要因分散分析
- 【第9回】 3つ以上の平均値を比べる②:参加者内1要因分散分析
- 【第10回】 2つの要因における平均値を比べる①:参加者間2要因分散分析
- 【第11回】 2つの要因における平均値を比べる②:参加者内2要因分散分析
- 【第12回】 2つの要因における平均値を比べる③:混合計画2要因分散分析
- 【第13回】 3つ以上の要因における平均値を比べる:3要因分散分析
- 【第14回】 ノンパラメトリックデータにおける差を比べる:クラスカル・ウォリス検定、フリードマン検定
- 【第15回】 まとめ